

音圖及手習詞歌考索引

上欄見出索引

ア之部

阿女都千の名の見えたる古書類

阿女都千知に對する伴信友の説

順集あめつちの歌四十八首

阿女都知に對する榊原芳野の説

阿女都千のユワは硫黄なり

阿女都千の遠く天略以上に行はれ

たる證據

阿女都千の行體なりし推測

阿女都千の功績

アヤ二行のエの分別一覽表

イ、イ之部

伊呂波歌

伊呂波研究の理

伊呂波假名の四聲

伊呂波字類抄の伊呂波分けの伊呂

波

六

伊呂歌の意義
伊呂波の説法

六三

伊呂波和難集の伊呂波分けの伊呂

波

六

伊呂波歌を七字に切れば其行末ト
ガナクテシヌの七字となるにて

六六

伊呂波を以て空海の作なりと云ふ

こと大江匡房の頃までは不審なりしが如し

六

伊呂波歌を空海の作なることを主張せる伴信友の論

六九

伊呂波の空海の作ならざる證ある

も尙舊説を固執するものある理由

六

伊呂波の空海の作ならざる第二證

七二

伊呂波の空海の作ならざる第三證

七

伊呂波は空海の作ならざる第三證

七三

伊呂波作者に對する説の眞偽を明かにするの方針

七

證以外の諸證

七四

伊呂波製作の理由

七

伊呂波歌は空海の作ならざる所定

七四

伊呂波の歌式

七

伊呂波歌ノ天慶ヨリ永親マデニ成

七五

伊呂波字の字源

七

伊呂波歌の作られたる時代の推定

七五

韻鏡内外轉と古今注五十音豎位との一致

七

運歩色葉集の以呂伴

七六

伊呂波字中の周代古音

七

字都保物語手本のこと

七六

伊呂波の末に京字を附する始

七

字都保の歌不明なる辭を改削す

七六

伊呂波字原の類別

七

ウ之部

七六

伊呂波字中の周代古音

七

ウ之部

七六

伊呂波の末に京字を附する始

七

ウ之部

七六

伊呂波の末に京字を附する始

七

ウ之部

七六

宇都保時代未だ伊呂波無かりし推

斷

エ、ヱ之部

悦目抄伊呂波

延暦二十四年の童謡

オ、ヲ之部

音圖上エエ、オヲ、を分別せる時

代の限界

音圖豎横位の異同の類別

音圖製作時代の斷定

男手女手の別

尾張濱主の歌

女手

カ之部

片假名は吉備公の作に非る理由

片假字ヲ伊呂八といふこと

河海抄伊呂波作者の説

一四

六四

九九

七

八

六

五

九九

一三六

一八

七〇

七三

かたかな

キ之部

京字に對する諸説

京字によりて伊呂波作者を推定の

説

教化

ク之部

口遊に阿女都千の名の見えたるさ

ま

口遊作者

口遊・大爲爾歌の縮臨

黒川本源平盛衰記

空海時代の歌謡と伊呂波歌との比

較

空也和讃の作者

空海時代の草假名表

ケ之部

一三

六

八

一〇三

三七

五四

五

七四

一〇一

一三

二九

元人の伊呂波の説

コ之部

五十音圖の本來の目的

五十音圖と國語との關係

五十圖と言靈家

五十音圖の種類及び構成

五十音と悉曇との豎横位の一致

五十音圖豎位異同と其の理由

五十音豎位の理由

五十音は吉備大臣の作と云説

五十音圖の眞價

古言衣延辨

古代なにはづあさかやまを手習ひ

し所以

金光明最勝王經音義の伊呂波

金光明最勝王經音義の伊呂波の縮

臨

江談伊呂波の説

極樂往生歌のイロハの縮幕

七

三

三

三

八

九

一四

一五

一七

三〇

三九

五

六

六

六

六

六

極樂往生歌、伊呂波の杵冠

極樂往生歌の寫真

高野日記のいろはのこと

興福寺大律師等が獻れる長歌

五七調の七五調となれる理由

サ之部

佐藤誠實翁と谷森善臣翁との援助

相摸集あめつち十六首

讚歎類字句數の異論

シ之部

豎位の不同

悉曇音譯時代と中古以後の發音の

不同

十一個の眞假名圖の文字の異同

慈覺の在唐記中悉曇字母集

諸先哲の五十音を過重せる状態

順集あめつちの歌四十八首

釋日本紀開題の伊呂波の説

六

六

七

一〇

二二

三

七

一〇九

四

二

二〇

二七

二九

三三

六九

悉曇輪略抄の伊呂八

悉曇輪略抄の伊呂八の寫真

慈鎮拾玉集の今様

承和二年の童謠

舍利讚歎

七五四句一章單行の和讃と其の長

篇との行はれたる時代の前後

四十八音時代

性雲集序

字母弘三乘二眞言演四句一と説四

句演ニ毘尼一と共に伊呂波の事に

あらず

眞の手

タ之部

大爲爾歌

大爲爾歌の讀方

大爲爾歌の意譯

大爲爾歌の考證上の益

多羅葉記伊呂波分けの伊呂波

七〇

七四

八一

九八

一〇一

二七

二四

一三〇

一三二

一三五

二五

二五

二五

二五

二五

二五

二五

二五

六九

チ之部

貞觀九年大屬有年の假名文寫真

ツ之部

徒然草のいろは

つ字に對する字原の數説

テ之部

天朝畧談

天文本和名抄の卷首の伊呂波

天祿以前伊呂波存在の跡無し

ト之部

トガナクテシスの意義

ノ之部

信友の説に服せざる論者の駁論

信友が宇都保の歌を曲解せるを怪

しむ

一三三

七三

八四

八四

四〇

三三

三九

三九

九七

九七

一三〇

一三〇

一三六

一三六

ヒ之部

百石讚嘆 一〇三

百石讚歎の蘇芥集と三寶繪と字句

の差異 一〇六

百石讚歎の作者 一〇七

百石讚歎の百石はモ、サカと讀む

べき説 一一〇

ヘ之部

平家物語の今様 一一二

平群賀是麻呂の歌 一一九

ホ之部

寶龜元年の童謡 一二九

法華讚嘆 一三〇

マ之部

眞假名圖上文字の異同 一三八

眞假名圖中より抜粹せる六古圖 一二二

眞假名の下圖は一原圖より出でたる推測 一三三

五十音原圖の暗推 一三三

天曆以上眞假名片假名のア行のエ

を衣又はラと書きヤ行のエを江

若くはエと書く實例 一三五

五十音の眞言宗より出でたりとい

ふ説 一三五

五十音の天臺宗より出でたる説 一三六

眞假名伊呂波文字の比較 一三七

ミ之部

密嚴諸秘釋なる以呂波歌 一三五

彌陀和讚の千觀の作なる證 一三三

源順及び爲憲のアヤ二行のエを分

別せざりし證 一三六

ヤ之部

倭片假反切義解の伊呂波説 一三七

リ之部

凌雲集中の詩句 一三九

ワ之部

横位異同の比較 一四〇

横位の異同 一四〇

和讚の前身讚嘆教化の類 一四〇

和名抄口遊の時代即天祿永觀前後

の假名遣の状態 一四七

大正七年八月一日印刷
大正七年八月四日發行

音圖及手習詞歌考奧附

定價 金 貳 圓

編纂者 大 矢 透

東京府北豐島郡高田村大字雜司ヶ谷九三六番地

發行者 大日本圖書株式會社

東京市京橋區銀座一丁目廿二番地

右代表者

專務取締役 宮 川 保 全

印刷者 中 西 彦 三 郎

東京市小石川區久堅町一〇八番地

印刷所 博文館印刷所

東京市小石川區久堅町一〇八番地

東京市京橋區銀座一丁目廿二番地

發行所

大日本圖書株式會社

郵便振替貯金口座東京三二九番